

【概要版】第3期静岡市水素エネルギー利活用促進アクションプラン

<静岡市の水素エネルギー利活用の方向性>

水素エネルギー利活用促進ビジョン

計画期間：2017年度から2030年度まで

目標

水素エネルギーを利活用した「静岡型水素タウン」の実現

<SDGs(※)と関連付けた基本的視点>



※ SDGs(持続可能な開発目標)とは、平成27年9月の国連サミットで採択された2030年度までの世界共通の目標(17のゴールと169のターゲット)

<目標達成に向けたプロジェクト>

(共通プロジェクト)
水素エネルギーの普及拡大

(都市部プロジェクト)
IoTを活用した
水素エネルギーの利活用

(港湾部プロジェクト)
清水港を活用した
水素エネルギーの利活用

(山間部プロジェクト)
未利用エネルギーを活用した
水素エネルギーの利活用

第3期静岡市水素エネルギー利活用促進アクションプラン

計画期間：2021年度から2022年度まで

具体的事業・指標

- ・事業内容
- ・スケジュール
- ・指標(現状、目標)

水素エネルギーを利活用した「静岡型水素タウン」の実現

水素エネルギー利活用促進ビジョン

【目標】

【目標達成に向けたプロジェクト】

共通プロジェクト

水素エネルギーの普及拡大

理解の促進に向けた情報発信

燃料電池を活用した機器の普及拡大

新たな技術革新などに伴う水素エネルギー導入可能性の検討

都市部プロジェクト

IoTを活用した水素エネルギーの利活用

スマートICの有効活用

FCVの普及拡大につながる水素インフラの拡大

街区全体のエネルギーをIoT技術を活用し最適な管理

港湾部プロジェクト

清水港を活用した水素エネルギーの利活用

国際貿易港「清水港」への水素供給基地の整備

周辺施設への水素供給

周辺地域への水素輸送

山間部プロジェクト

未利用エネルギーを活用した水素エネルギーの利活用

温泉付随ガスと微生物を活用した水素製造

周辺施設への水素供給

自立分散型エネルギーシステムの構築

水素エネルギー利活用促進アクションプラン

【具体的事業】

- ★水素を活用した環境教育推進事業
科学館や小学校での環境教育実施
- ★FCVを活用した普及啓発事業
燃料電池自動車の導入、燃料電池自動車を保有する事業者との連携
- ★災害時FCV有効活用事業
災害時有効活用協定、協力企業認定制度の創設
- ★静岡市水素エネルギー利活用促進協議会運営事業
協議会の開催、先進地視察(必要に応じ)
- ★普及初期における導入支援事業
静岡型水素タウン促進事業補助金、ZEH化補助金の実施
- ★水素需要拡大に向けた新技術開発等に対する支援事業
静岡型水素タウン新技術開発等促進事業補助金の実施
- ★未利用水素エネルギー利活用検討事業
未利用水素エネルギーの利活用、新たなキャリアの開発
- ★燃料電池バス導入に向けた検討
燃料電池バス導入に向けた検討、普及啓発事業の実施
- ★新たなパートナーシップの獲得
国内の取組の動向把握、ステークホルダーへのアプローチ

- ★スマートインターチェンジ活用検討事業
FCVユーザー向けの特典検討
路外充填実証の実施に向けた調整
- ★新たな水素ステーション整備に向けた検討
ステーション整備、FCV普及策を実施する事業体の構築
- ★水素供給設備整備事業
供給設備整備に向けた総合調整、事業採算性調査の実施

- ★清水みなとエリアにおける水素サプライチェーン構築事業
港湾部におけるエリア開発、水素供給基地整備に向けた検討を行う分科会の設置
- ★周辺市町と連携した需要創出事業
オフサイト型水素ステーションの検討
しずおか中部連携中枢都市圏域での普及啓発

- ★未利用エネルギー利活用実証事業に向けた調査事業
中山間地域での適地調査、実証実験に向けた総合調整
- ★微生物を用いた水素製造調査研究事業
水素生成リアクターの実証実験

【指標】

<2020実績> <2022目標>

水素を活用したまちづくりを必要と思う市民の割合
94.4%※ ⇒ 50.0%
※ イベント時における参考値

家庭用燃料電池
2,258台 ⇒ 13,500台

業務用燃料電池
1台 ⇒ 6台

燃料電池自動車
30台 ⇒ 500台

環境教育などの実施者数
8,663人 ⇒ 14,000人

燃料電池バス
0台 ⇒ 2台

水素ステーション設置数
1基 ⇒ 2基

パイプラインなどを活用した水素供給
- ⇒ 実施

港湾部における水素需要創出モデルの構築
- ⇒ 構築

周辺市町との連携
1自治体 ⇒ 3自治体

未利用エネルギー利活用実証事業に向けた調整
- ⇒ 実施

水素生成リアクターの実証実験
実施 ⇒ 完了